

お知らせ

平成30年10月25日

情報提供先：島根県政記者会、
出雲市政記者クラブ

10月31日(水)志津見ダムからフラッシュ放流を実施します。

志津見ダムでは、神戸川の河川環境改善を目的としたフラッシュ放流を行いますので、お知らせいたします。

フラッシュ放流は、ダムからの放流量を一時的に増加させ、人工の小規模洪水を起こすものであり、河床の石に付着している藻類の剥離や河床堆積物（落ち葉など）の掃流により、生物の多様な生息・生育環境の保全、復元や水質環境の改善を期待するものです。

フラッシュ放流は、平成25年度より毎年実施しており、今年で6回目となります。

なお、フラッシュ放流により、河川の水位が普段より上昇しますので、河川の利用にあてっては、十分注意してください。

フラッシュ放流の詳細については、別紙1をご覧ください。

【実施予定日】

フラッシュ放流実施予定 平成30年10月31日(水) 8時30分頃～

直前の気象等により、延期する場合があります。その際は、

Webサイト(出雲河川事務所 <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen>)でお知らせします。

フラッシュ放流前後の河床堆積物の掃流状況(平成26年)



フラッシュ放流前



フラッシュ放流後

<問い合わせ先>

国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所 0853-21-1850 (代表)

【担当】副所長 沖田 宏之 (おきた ひろゆき)

管理第二課長 飯田 博英 (いいだ ひろひで)

0853-20-1754

志津見ダム管理支所 支所長 梅野 秀明 (とがの ひであき)

「くにびきくん」 (飯南町角井1891-20) 0854-73-0222

志津見ダムキャラクター



志津見ダムからのフラッシュ放流について

フラッシュ放流実施の経緯

島根県が設置した「神戸川の河川環境に関する専門委員会」の報告を受け、平成25年度より志津見ダムからのフラッシュ放流を毎年実施しています。

「フラッシュ放流」とは

ダムで洪水を調節をするようになると、出水時にダム下流の水量が増減する頻度が少なくなり、川底などに細かな砂や、草や枝などの有機物の堆積が進むことがあります。

フラッシュ放流は、一時的にダムからの放流量を増やし、人工の小規模洪水を起こして、河床の石などに付着した泥等を取り除いたり、生物の生育環境の保全や水環境の改善を期待するものです。

フラッシュ放流の効果を検証するための調査について

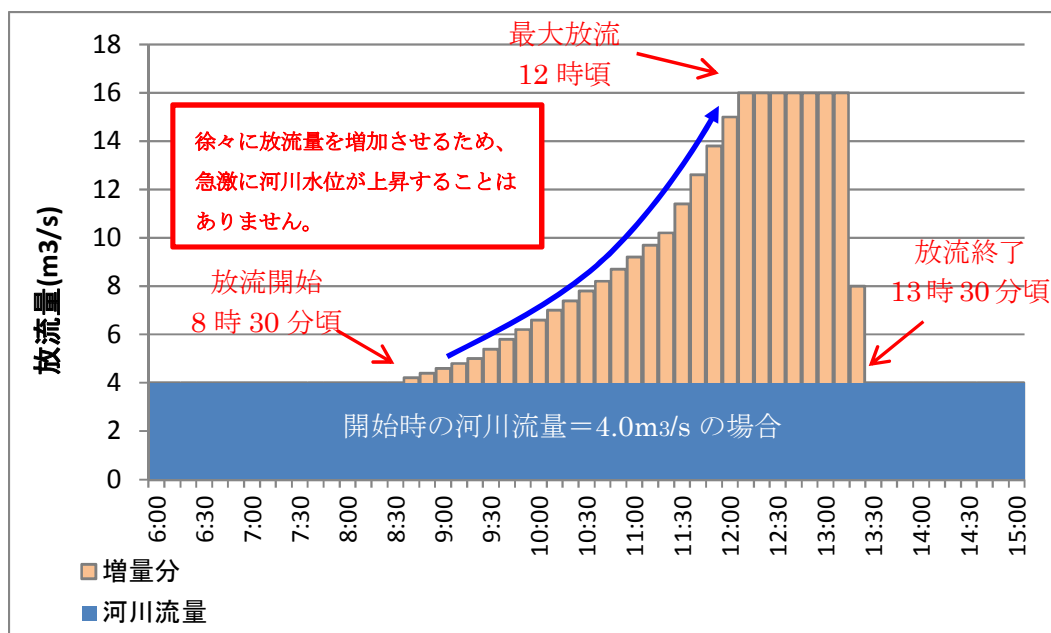
今回のフラッシュ放流では、ピーク放流量継続時間を1時間とした際の効果を把握するために、フラッシュ放流前後の河床付着物量の変化、落ち葉等の掃流状況を調査します。

注意して欲しいこと

フラッシュ放流により、下流の河川では水位が上昇します。また、川の幅が狭くなる場所、川の傾斜が急な場所では、他の場所より水位が高くなったり、流れが速くなる場合があります。

予想される水位上昇量と時間は別紙2のとおりです。

フラッシュ放流時の放流計画グラフ





フラッシュ放流時の水位上昇・到達時間 (予測値)